

## 薬師寺東塔保存修理工事への奈文研の参画

奈良市西ノ京に所在する薬師寺の東塔では2009年度より10カ年の計画で保存修理事業がおこなわれています。奈良県教育委員会事務局文化財保存事務所が、薬師寺より受託し実施するものです。建造物研究室では、解体工事が始まった2012年度より毎年、研究員1名を派遣しています。

天平2年(730)に現在の地に建てられた東塔は、同じく奈良時代前半に建てられた平城宮第一次大極殿、大極殿院の復原にあたって、大いに参考にしています。その構造や意匠が、ほかの奈良時代の建築と大きく異なることから、藤原宮の南に位置する本薬師寺から移築したものか、否かという論争が、明治以来続いています。建造物の修理にあたっては、構造耐力を担保する必要がある、東塔では特に相輪や基壇にかんして、対策が求められており、美術工芸品、史跡といった文化財の保護の枠組みにも話はおよびます。

これらの難問解決のため、建造物研究室からの研究員派遣以外にも、多くの調査・研究に奈良文化財研究所が参画しています。埋蔵文化財センターの年代学研究室が年輪年代測定等を受託しているほか、同保存修復科学研究室、遺跡調査・技術研究室の各室が、相輪、塗装・彩色、三次元計測にかんして協力しています。これらは、いずれも新しい調査研究方法により東塔に迫るものです。木部の解体を終えた後には、都城発掘調査部が橿原考古学研究所と共同で基壇の発掘調査に臨みます。多分野の研究者が集まる奈文研だからこそ、可能な文化財の総合的な調査・研究といえるでしょう。

(都城発掘調査部 鈴木 智大)



解体がすすむ薬師寺東塔(二重裳階腰組)